

学校支援活動事業訪問

桑折町訪問【桑折町立伊達崎小学校】

訪問日： 令和元年11月25日（月）10：30～11：40

場所： 伊達崎小学校1年教室・2年教室・体育館

内容： 第1・2学年「むかしあそびにちょうせんしょう」での学校支援ボランティア

今回の学校支援は地域の老人クラブの方6名が学校支援ボランティアとして講師になり、1・2年生を対象に「おはじき」「あやとり」「お手玉」「こままわし」「めんこ」を教えてくださいの活動です。4人ずつの縦割班に分かれて順番にそれぞれの活動を体験していきます。各コーナーでは学校支援ボランティアの方が手取り足取り優しく遊び方を教えてくださいます。各コーナーで、時間も忘れて夢中になって遊ぶ子どもたちの姿が見られました。



【先生の声】

町のボランティアセンターと連絡を取り合い、期日や内容の調整をしてきました。今日は、普段あまり目立たない子どもが、実はあやとりが上手で生き生きと活動する姿が見られました。自分の得意なことを知り、それを伸ばすことで自信をつけてほしいと思います。お年寄りの皆様が温かく子どもたちを包み込んでくださるので、子どもたちは安心して活動に没頭していました。

【学校支援ボランティアの方の思い】

今日は桑折町・伊達崎地区の産業（王林リンゴ、献上桃）、歴史・史跡（西山城、伊達家）、言葉（たまげた…おどろいた）、地名（ドウバス…道林）のメンコを自作して持ってきました。今日の活動を通して楽しみながら自分の町や地区を知り、大切にしていってほしいと願っています。

【児童の声】

私はお手玉が楽しかったです。始めは難しかったけれど、だんだんお手玉をキャッチすることができるようになって、すっきりした気持ちになりました。



校長先生は「本校は地域の方との関わりを重視し、教育課程に明確に位置づけています。このような地域の方と子どもたちの温かい交流の様子を学校のホームページでこまめに発信しています。地域の方もホームページを楽しみにしてくださっています。」とおっしゃっていました。このように、学校が地域に対して「開かれた教育課程」を組み、双方向で関わり合うことが互いの結びつきを強いものにし、持続的な学校支援活動にするためのポイントであると感じました。